

三條別院のご案内

真宗大谷派三條別院

TEL : 0256-33-0007

E-mail : sanjo@betsuin@wing.ocn.ne.jp

三條別院に想う

私が初めて三條別院にお参りさせて頂いたのは、七百回忌御遠忌の法要が勤まっていた時でした。

ですから今から五十年近くも前と言うことになりません。一九六四年（昭和三九年）九歳の年に得度しましたから、その年以降に三條別院で七百回御遠忌が勤まったのだと思います。確か、法要は当時の新門さん（光紹氏）が出仕されていた時のことでした。

先代住職に連れられて行って言われた仕事は「挿鞋（そうかい）直し」でした。儀式作法など何もわからない頃ですので、言われるままに法要が始まる前に何回か練習をさせられました。薄丁子（ピンク色）の裳付けだったのか色直綴（色衣）だったのか覚えていませんが、とにかく派手な色の衣で舞台衣装のように思えて、少し嬉しくも緊張して着ていたように思います。当時の役係さんが厳しい方で、すこしのろのろとしていると遠慮なく叱責する方で、そのおかげで、無難にこなすことができ、良く出来たのだと思います。

よほどかわいかったのか知りませんが、新門さんが控室に来るように私を呼んだらしくて、父が手ぶらで行けないからと包みものを用意し

て会いに行きました。当時、法主の

代行でいらつしやつたのでしようが、父は次期法主に呼ばれたと言うので随分と緊張し慌てていたように思いました。私は呼びつけておいてご褒美をやるというのではなく、なんで包みものまでこちらが用意しなくてはならないのか不思議に思っていました。笑顔で迎えていただいたのですが、新門さんはほとんどお話しされることはなく、随行の方（恐らく堂衆さん）が私にいろいろと質問をされていました。新門さんはニコニコとうなずいているだけだったように思います。控室に待機していた時に、新門さんの調声もれ聞こえてくるのですが、その調声の語尾が上がるような特徴のあるものでした。

役係さんたちが「癖のある調声だね。」とお話しされていたことを今でもはっきり覚えています。改めて思い起こしてみますと別院の七百回御遠忌にお参りできたことは幸いでした。此度の七百五十回忌と合わせて生涯に二回も御遠忌に参拝できたことのご縁を喜びたいと思っています。

（第二十組金寶寺住職 朝倉孝英 氏）

○次回の「三條別院に想う」は、

佐々木誠一氏（第十組極楽寺）より

ご執筆いただきます

■秋の別院奉仕研修会開催

去る十月二十五日、教区推

進員と別院有志の会を中心に、報恩講に向けて標記研修会を行いました。内容は仏具のおみがき、屋内清掃で、六十名を超す参加者が奉仕を行いました。

あいにくの大雨で、屋外清掃は十分には行えませんでした。僅かな晴れ間を縫って、本堂周りの草取りを行いました。

十八間四面の広さを持つ別院本堂と諸殿・境内地を維持していくためには、崇敬区内の御寺院・御門徒の力が必要です。その足掛かりとして教区の推進員・別院有志の会に呼びかけて始まった別院奉仕研修会も、恒例行事として定着してきました。別院で



僧俗が出会い、奉仕という具体的な活動を通して共に仏法を学んでいける、貴重な機会となっております。奉仕研修会は春・秋と二度行っており、どなたでもご参加できますので、ぜひご来院ください。



改観寺雑巾講による雑巾贈呈式

去る十月十七日、改観寺雑巾講による雑巾贈呈式が行われ、雑巾二百一十二枚をご進納いただきました。

「雑巾講」とは聞きなれない言葉かもしれませんが、かつて砂ぼこりで汚れた別院の清掃奉仕をただ一人黙々と勤められていた一人の御門徒を助けるために、皆で集まって雑巾を縫い、別院に寄付することで始まったお講であると聞いています。現在では、前記事の別院奉仕研修会のように、大勢のお力添えにより別院の清掃が行われ、その場でも、頂戴した雑巾を使用させていただいています。



現在の雑巾講は、冬期に一堂に集まって雑巾を縫い、コンサートや讃岐うどんの振舞を含んだ楽しい内容となっており、別院職員もご招待いただいております。毎年報恩講前に贈呈式を行っており、今年も別院職員による宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念事業である本堂修復の概要説明と法話が行われました。この雑



巾講のように、当別院に様々な形で関わっていただくことが可能ですので、ぜひご相談ください。

儀式作法講習会開催



お取り越し報恩講に向けての標記講習員会が、本年は新潟北地区（二十三組善照寺）、三条別院を会所で開催され、それぞれ六名、十二名の参加をいただきました。講師に元本山定衆安藤栄寿氏（第二十一組 勝楽寺住職）をお招きし、特に三条別院報恩講の内陣出仕・退出を念頭においた講義・実技が行われました。

講義では「内陣出仕」するということの「意味」から解説され、その表現である所作



の一環として和讃本の扱いについての具体的な実技・指導もあり、浄土の座に着いた出仕者は、自身が莊嚴として指先まで意識をめぐらすことが必要であると説かれました。なお、仏青報恩講が十

月二十五日に行われたこともあり、青少年二部門に関わる僧侶も多く受講されました。

御命日（二十八日）の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。本堂修復に伴い、一年間仮本堂（同朋会館二階）でのお勤めとなります。

どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日（二十七日）はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めをしております。

【十一月二十八日（木）】

午前十時 お勤め（御命日 日中法要）

正信偈 真四句目下

念仏讃 洵五

和讃 回口 次第六首

回向 願以此功德

◎今月の法話講師

關根 大丘 氏（第二十組 松韻寺）

◇今後の講師一覧

十二月 光井 栄史氏（第十六組 願善寺）

定例法話会のご案内

毎月十三日には、「両度の命日」と呼ばれている前門首のご命日です。また、蓮如上人も御文の中で、「両度の命日」についてお書きになられています。(四帖目十二通)

旧御堂にて開催しておりましたが、改修工事に伴い、一年間仮本堂(同朋会館二階)での開催となります。皆様、お気軽にお越しください。

◇日時 毎月十三日 ※八月、一月は除く

午後一時三十分より(二時間程度)

◇場所 三条別院 仮本堂

※会場は変更になる場合があります

九月～十二月

山代 英世 氏(第二十一浄泉寺)



別院 声明教室のご案内

左記の通り、声明教室受講生を継続して募集いたしますので、ご希望の方は是非ご連絡ください。

◇開催日 十一月十九日(火)
十二月十八日(水)

◇時間 午後六時より午後八時まで

◇会場 教区同朋会館(三条別院内)

◇講習内容 正信偈 草四句目下
念仏讃 洵三

和讃 弥陀成仏のこのかたは
次第六首

回向 願以此功德

◇講師 島津 崇之 氏(第十八組 満行寺)

◇持ち物 『真宗大谷派勸行集』または『大谷聲明集 上』、念珠、筆記具

◇参加費 五〇〇円/回

書道教室共同作品「恩徳讃」

三条別院では昨年より、書道教室を開催しております。東別院の「東」の一字をとり、「東友会」という名前を先生よりいただき、このたびのお取り越し報恩講に併せ、一年間の鍛錬の成果として、共同作品「恩徳讃」を制作いたしました。受講生が毎回練習の後に唱和する恩徳讃を、一人二文字から三文字ずつ書き、完成させました。小学生から大人まで(職員も)参加させていただいており、それぞれの字に独特の個性が有り、楽しい作品に



なっております。

現在、同朋会館に展示しておりますので、是非ご覧いただければと存じます。また、参加者を追加募集いたしますので、ご希望の方は是非ご連絡ください。

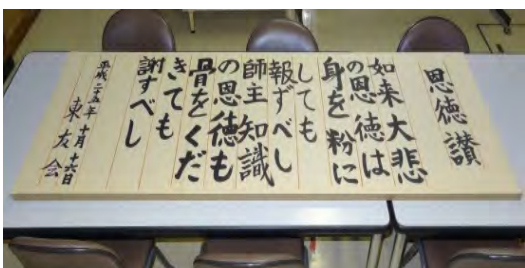
◇開催日 毎月二回(第一、第四水曜日)

◇時間 午後六時三十分～八時

◇講師 木原 光威 氏(新潟県書道協合理事)

◇持ち物 筆(大・小)、硯、下敷、文鎮、墨液、半紙、新聞紙

◇月謝 二五〇〇円(テキスト代含む)



別院奉仕研修について

先達の篤き御懇念によつて護持されてきた三条別院にお越しいただき、その歴史に触れていただくとともに、現代の様々な問題を抱える私たちが、真宗門徒として親鸞聖人のみ教えに出遇う、そのような奉仕研修会を開いてみませんか。

ともに語り合い、人間として生きる意味を尋ねていく場となればと考えております。

○日程及び内容について、「要望等」ございましたらご相談承ります。

○奉仕研修会を参加いただく方(団体)の、冥加金は左記のとおりです。

◎冥加金

- ・日帰り 一、五〇〇円
- ・一泊二日 二、五〇〇円

◎食事代(昼・夕食は業者発注のため)

- ・朝食代 五〇〇円
- ・昼食代 一、〇〇〇円程度
- ・夕食代 一、三〇〇円程度

同朋会館に宿泊される方へお願い

同朋会館に宿泊される方は、宿泊当日に同朋会館一階の事務所にございます宿泊者帳に記載してください。その後、シーツクリーニング代五〇〇円とシーツを交換させていただきます。

なお、宿泊される方は、翌朝七時より仮本堂

にて晨朝が勤まりますので、お参りいただきませうようお願い致します。

三条別院巡回について

去る十月二十一日三条市下須頃地区より御依頼があり、御影巡回を開催いたしました。お斎で隣席になった方に講の由来を尋ねたところ、「私も長く巡回にお参りしているが、いつから始まったのか解らない」というある意味で拍子抜けするお返事をいただきました。しかしそれが八十歳近い御門徒の発した言葉であることを考慮するならば、「代々受け継がれていたものであり、自分もそれを受け継いだだけである」という深い歴史を物語っているといえましょう。かつて三条別院の御影をお迎えし、各ご門徒のお宅で聞法会が頻繁に行われておりました。しかし、時代の流れや、世代の交代で今では数えるほどこしか行われていません。ご門徒の皆様をはじめ有縁の方にご案内いただき、三条別院巡回がより多くの方々のお念仏をいただくご縁となりますことを、願っております。

※巡回の曜日・時間等はできるかぎりご都合に合わせてますので、お気軽にご相談させていただきます。

三条別院有志の会について

三条別院では「三条別院有志の会」という集いを持ち、法話や座談会(茶話会)など、近隣の方

をはじめ、有縁の方にお集りいただいております。現在十余名の有志の皆様によって活動しておりますが、「三条別院有志の会」では、より多くの方にご参加賜りたく、新たな参加者を募っております。お気軽にどなた様でもご来院くださいますよう、ご案内申し上げます。お問い合わせは三条別院まで。

◇◇編集後記◇◇

ラーメンの味には主に醤油、味噌、塩、豚骨がある。いずれの味も甲乙付け難く、人それぞれ好みも違う。食べ終わる迄には十五分程度、しかしその一杯を作るのに膨大な手間が費やされてる。小生は本年のお取り越しでは掛役という役柄を仰せつかった。参詣席からは目立たない部分ではあるが、燭台、香炉、華瓶のお荘厳の位置から、燃香、立燭、配卓等の所作の一つ一つが数センチ数ミリの単位で意識され、法要の円滑な進行を助ける一翼を担う。別院創立約三二〇年の歴史から見れば短い四日間だったかもしれない。それでもこの瞬間を経ちえた意味に問われる自分ではない。無事に勤められた御褒美は三条名物カレーメンだな。



(W)

●次回の三条別院のご案内は報恩講特集号となります。